

## ■ 特集 明日につなげる運動発表大会



日本化薬グループは、「明日につなげる運動」という全社発表大会を毎年開催しており、2013年で第54回目を迎えました。

1963年にデミング賞※1を受賞し、受賞後も近代化へ向けた取り組みとして実施していたQC（Quality Control）活動に関する発表の場として1966年から「社内QCサークル大会」が始まりました。

その後、名称を変更し1995年から「明日につなげる運動発表大会」となりました。

さらに、2005年の47回目からは海外のグループ会社も参加し、日本化薬グループ全体の発表大会を実施しています。発表内容は、業務改善・コストダウン・5S※2活動・次世代育成・省エネルギー活動など「行働※3」をする上で必須となる取り組み等をテーマとして掲げています。

この発表大会を通じて、日本化薬グループの社員の問題発見力・解決力・創造力を高め、職場の課題解決、さらには日本化薬グループ全体のコミュニケーションの場に繋がるように努めています。



海外からの参加者も含め活発な討議が行われました（左）  
Kayaku Safety Systems de Mexico社（メキシコ）の発表（右）

※1【デミング賞】1951年、日本科学技術連盟が創設。アメリカの品質管理（QC=Quality Control）の権威であるデミング博士の日本に対する友情と品質管理に対する業績を記念し、統計的品質管理を実施しその年度において顕著な業績向上が認められ、将来に向かって品質管理の進歩が予想される企業に与えられる賞。

※2【5S】 整理・整頓・清掃・清潔・躰(しつけ)の5項目をローマ字表記した場合の頭文字から由来。

※3【行働】常にコスト意識をもち、付加価値を生み出すための活動。日本化薬グループ独自の言葉。

### 【大会実行委員長コメント】 第54回 明日につなげる運動発表大会

大会スローガン「成長点を開花させ100周年に向けて躍進しよう」大会コンセプト「KAYAKU spirit を根幹に、洗練した仕事を積み重ね自信と誇りを充填し 次への成果を取り出そう」

第54回明日につなげる運動発表大会は、2013年2月21日・22日に日本化薬の医薬品工場のある群馬県高崎市を会場とし、海外からは中国・アメリカ・チェコ・メキシコの4カ国が加わり総勢250名を超える参加者

のもと盛大に行われました。

今回の大会スローガンは「成長点を開花させ100周年に向け躍進しよう」、大会コンセプトは「KAYAKU spirit を根幹に、洗練した仕事を積み重ね 自信と誇りを充填し次への成果を取り出そう」とし、2016年の創立100周年を念頭におき、高崎工場らしく医薬品の製造現場ならではの言葉を踏まえたものにしました。

この大会は、職場単位での成長の原動力である工夫や改善はもとより、組織横断型の活動なども幅広く取り上げ、互いに技術を高めるための交流の場として行われてきました。今回は、特に海外事業場の発表にとても勢いを感じ、活動を通して、職場が強くなっていると思いました。国内事業場においては省エネ、コスト改善、次世代育成などの喫緊の課題に取り組んだテーマが多く、日本化薬グループ全体での情報共有ならびに中期事業計画 **Challenge 100A**！達成への意思確認ができた「場」となりました。



大会実行委員長 高崎工場 製剤製造部  
関口 博一

## 2012 年度 第 54 回 明日につなげる運動発表大会 受賞紹介

### <優秀賞>

#### テーマ GTMSネイキッドスクイブ在庫削減

事業場 Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V. (自動車用安全部品の生産工場)

内容 在庫が急激に増えていたネイキッドスクイブ(点火装置)の在庫削減のため、根本原因の特定を行い、40%弱の在庫削減を達成しました。

#### テーマ 生物処理の有効利用によるWAC排水処理能力の向上

事業場 無錫先進化薬化工有限公司(WAC)(染料工場)

内容 WACのある無錫市では排水中のCOD※4値等さまざまな排出規制があるため、排水処理方法の大幅な改良検討を行いCOD除去率の向上、運行費用の低減を達成に努めました。

### <特別賞>

#### テーマ モデュラン工場の3無改善

事業場 日本化薬フードテクノ株式会社(食品関連製品の製造販売)

内容 脱酸素剤は低価格での販売勝負となっており、対抗するためには「品質の良い安価な製品」が必須となります。ムリ・ムダ・ムラの3Mを解消することで、コスト削減に繋がりました。

#### テーマ 省エネルギー活動と実績

事業場 姫路工場(自動車用安全部品の生産工場)

内容 生産数量増加に伴い年々エネルギー消費量が増加し続ける状況の中、省エネ活動の一層の推進により、難しいとされる絶対値でのエネルギー削減の達成に努めました。

明日につなげる運動発表大会は、日本化薬グループ社員の情報交換・意思の疎通・目的意識や問題点の認識により、新たな融合が生まれる有意義な「場」となっています。日本化薬グループの独自技術を進化させ、その成果をグループの成長および社会に役立てようと、今後も大会を通じ日本化薬グループが一丸となり、新たな技術融合が生まれるよう継続していきます。

※4【Chemical Oxygen Demand】化学的酸素要求量。排水中の被酸化性物質を一定の条件下で酸化剤により酸化し、そのときに使用した酸化剤の使用量から、被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量を換算した指標のこと。CODの値が高いということは、それだけ水中の酸素を消費する有機化学物質等が多く含まれており、汚染度が高いことを示します。